

「みやまえにトンボを呼ぼう」～子どもたちの笑顔のために～（おやじの会） 宮前幼稚園（神奈川県川崎市）

< 願い > 宮前幼稚園では園児・保護者・先生・地域の方々の力を結集し、“みやまえビオトープ”を中心として、川崎市宮前区を昔ながらのトンボの飛び交う町にしたいと考えています。

さらに、子ども達にとって身近な生き物であるトンボを通し、命の大切さを学び、自然を保護し、創出する活動のきっかけにしたいと考えております

そして、この取り組みが、わが園と近隣の学校、または地域の交流を促進してコミュニティの形成と環境配慮行動の輪の拡充につながることを願っている。

< 環境 > ・園庭にたんぼや川、池が2つあり、ギンヤンマをはじめ多くのトンボが定着している。

・トンボなどの生物が暮らすための自然環境（ビオトープ）がある。

（初代おやじの会を立ち上げた方々が『みやまえにトンボを呼ぼう』という呼びかけをきっかけに自力で作られたものであり、度々の修復、整備などを経て現在に至っている。）

・「子どもたちの笑顔のために」活動することを目的とした『おやじの会』がある。

* おやじの会：土曜日保育の参観時間などを活用し、子どもとの遊びを通して、父親と子どもたちのかかわりを深めることを目的としている。

< 事例 > 親子で楽しめるトンボセミナー

1 目的 園の自然環境を核として、より豊かに自然生物の生態系が各ご家庭を通して拡大されていくように、『子どもと保護者とのかかわり』を大切にすることをねらい、実践する。

2 テーマ 『ひとつの生命が成長していく瞬間を親子で見守ってみませんか？』

3 展開

親子でトンボセミナー（子どもたちがより自然生物に興味をもてるように）

< 事前活動 > 午前保育中に子どもたちとおやじの会のメンバーで、ビオトープからヤゴを捕獲する。

卒園児の小学生もヤゴ捕獲を手伝ってもらいながら、親子でヤゴを見付けたり捕まえたりする。

子どもたちは先生や保護者とヤゴの形や動きに不思議さを感じながら、じっと見たり捕まえることを楽しんだりする。



< 活動1 > 親子で楽しめる身近な自然をテーマにした講話を聞く。

講師の東京家政大学教授 大澤 力先生から、自然環境の重要性や人と生物との共存を中心として、お話しをしていただく。

< 活動2 > 東京家政大学の学生さんによる「ヤゴの成長からトンボになるまでのお話」のパネルシアターを楽しむ。



<活動3> ヤゴがトンボになるまで飼育されたお父さんから、家庭での飼育方法やトンボ誕生の感動話を聞く。

家庭でのトンボの飼育についてお話をしていただく。トンボの羽化する動画に感動したり、トンボクイズに答えたりして楽しむ。



<活動4> ヤゴ飼育用水槽の作り方の説明後、実際にヤゴを観察する。

一人ひとりペットボトルに受け取ったヤゴを入れ、喜んで観る。

命あるものとして大切に家庭で飼育することを親子で相談する。

ペットボトルに入れて、大事に持ち帰る。



<活動後> 家庭でトンボになるところ(羽化)を見る。

感想

数日前から餌をあまり食べなくなり、水草の上の方をウロウロし、何より目がまさにトンボの目でギラギラしていた(父は笑いましたが、母にはそう見えた)ので、そろそろ?と思い、水槽を大きい囲いに入れて「朝が楽しみだね」と娘と話していたのですが、夕方見たら羽化していましたその瞬間こそは見られませんでした。まだ羽も体も透けているような状態で、どんどん羽が乾いて、体にしま模様が出てくるのを娘と一緒に見る事が出来ました。「スゴいねえ、キレイだねえ」と目をキラキラさせる娘を見て、いい体験をさせてもらったと思いました。ありがとうございました。

感想

セミナーでヤゴを頂いてから2週間、餌のミズも赤虫もほとんど食べる様子がなく心配していましたが、やはり羽化する前だったからでしょうか。特に1週間前位から、あまり動かず水草の上にとじっていることが多かったようです。

娘は羽化したトンボを見て大喜びでしたが、トンボを逃がした後は寂しくなってしまったようで、トイレにこもってシクシク泣いていました..(^_^;)

意外にも短い期間でしたが、心配したり喜んだり親子で貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

みどころ

子どもたちがトンボとのかかわりを通して、命や自然の素晴らしさを感じ、感動し、その大切さを実感することで「科学する心」が育まれることが期待できる事例です。この環境や実践から、子どもを取り巻く大人の願いと、子どもと共に生活し、活動しながら共に感動し学んでいく「人とのかかわり」が伝わってきます。保護者と保育者の願いが共有され、トンボとのかかわりが家庭にも広がっていることは、その他の取り組みでも生きていくと思われれます。